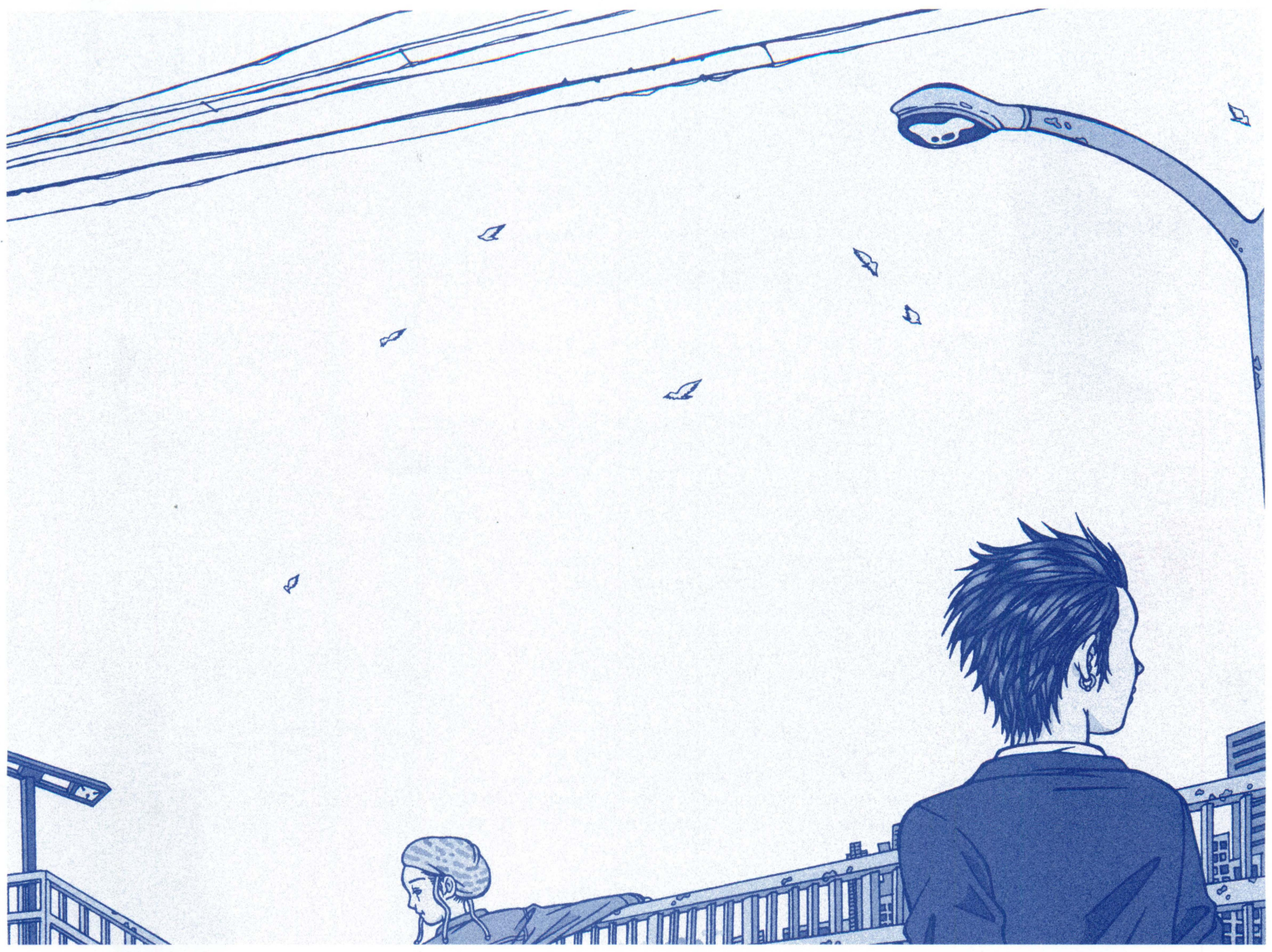




哀しい夜に出逢ったら、やさしい朝まで歩いていこう――

rendez-vous

ランテフー

2000年ベルリン国際映画祭フォーラム部門正式出品作品 村上淳、赤松美佐紀

監督・脚本＝山本浩資 プロデューサー＝磯見俊裕 撮影＝伊藤寛 照明＝佐藤謙 録音＝滝澤修 編集＝船見康恵 助監督＝萩生田宏治
製作＝ウォーターメロン・カンパニー 主題歌＝フィッシュマンズ「ナイトクルージング」(ポリドール) 配給＝ビターズ・エンド 1999年|日本|カラー|16ミリ|55分

Illustrated by Masami Kawano

なんでもなく一日はすぎて、いつもどおりに夜は明ける――。



それはちょっぴり切なくて、たまらなく心地よい
一晚だけのロードムービー。

最終電車に乗り遅れ夜の街をぶらつくトオルと、流れの静かな河に飛び込むナオ。
ふたりの間に痛みを残して、自ら逝ってしまったユウはこんな毎日の何を生きていたんだろう…。
「辛い」とか「寂しい」とかいう想いとは裏腹な、ユウがいなくなってしまったことの実感のなさ。
トオルとナオ、真夜中に出逢ったふたりはどこにいくでもなく歩き出す。ひと気のない商店街を、
ほの白く光る自動販売機の前を、たわいのない会話を交わし、なんとなく歩く。
歩道橋の上から走る車の群を見下ろし、遠くに広がるビルの明かりを眺め、夜ふけの街を、ただ歩き続ける。
流れゆく時間に身をゆだねながら、やがて歩き疲れたふたりの気分は、
ぼんやりと白み始めた明け方の空とともに軽くなって…

「ひんやりするような、あったかいような」毎日。

真夜中に出逢ったふたりが、明け方の街までくりひろげる一夜のロードムービー。
そこには今この時をどこかで生きている人々の姿が映し出される。
なんでもない毎日、いつもどおりの生活。映画はそんな私たちの「日常」を描き出す。
やり場のない想いをどうにもできずにひとりで過ごす夜の時間、
同じ哀しみに沈むトオルとナオは、偶然にも出逢い夜更けの街を歩いていく。
ふたりのぶっさらばうな距離感が少しずつ近くなってゆく過程。
思いがけずに共通の友人だったユウの死をふたりが次第に現実として受け入れていくさま。
やがて訪れる新しい朝に、ふたりの気分は少しだけ軽くなっていく。積み重なるささやかな出来事、
ゆるぎなく流れる時間、そこに生きる、人というちっぽけな存在の尊さ、愛しさ。
作り手たちの「小さきもの」に対する温かいまなざしは、
そのままフィルムに焼き付けられて、観るものに生きることの勇気と安心感を与える。
そして、またこの世界にありのままの自分でいることの心地よさを教えてくれる。

ささやかな日常、ちっぽけな自分、そんな“いま”が愛しくなる「瞬間」。
そして、作り手たちの軽やかなコラボレーションが始まった。

主演のトオルに村上淳。近年『trancemission』(99)、『ナビィの恋』(99)などの話題作に続々と出演、
自ら「思い入れのある、お気に入りの映画」と語る本作では、
単調な日々を生きる若者の姿を独特の存在感と特有の人間味で演じる。
ナオには、関西で活躍する維新派の女優、赤松美佐紀。ひとり夜の街を疾走する場面では、
映画初出演とは思えないほどの強烈な印象を残している。
さらに、主題歌にはフィッシュマンズの『ナイトクルージング』。
この曲のもつ心地良い浮遊感が、夜の街を漂うふたりの気分に、やさしく寄り添う。
そして、淡々と過ぎゆく日常にこそあるリアルな瞬間をフィルムにおさめたのは、
『Helpless』(97)、『萌の朱雀』(97)などの作品に現場スタッフとして参加し、
本作で監督デビューとなる新鋭、山本浩資。脇を固める製作陣のそうそうたる顔ぶれからも
今後の動向が楽しみな作り手として今、注目を集めている若手監督の一人である。

そんな毎日の中を、ぼくらはこれからも生きていく。



ランデブー

1999年 | 日本 | カラー | 16ミリ | 55分
配給＝ビタース・エンド



rendez-vous

公衆電話からアーケードに移るシーン、
胸をえぐられる程感動しました。
この映画を観る前、あらかじめ雰囲気は
きいていましたが、実際ホント観てみたいと
この美しさは言い表せないと思いました。
[漫画家] 魚喃キリコさん

アップアンダウン、アップアンダウン……
くねくねした夜の静寂に溶け込んだり、
溶け込まなかったり。この世界の中で
異物である人間が、(ぼんのすこしだけ)
紛れ込むことができそうな「夜の時間」。
その美しくもイキガヘな特性に
身をゆだねた映画だと思います。
[「米国音楽」] 川崎大助さん

いなくなって初めて時間を共有していた事に気付く。
それを境にして止まった時間と
自分の中に流れている時間との差が
否応なく開いてゆく事に戸惑う。
何も変わっていないはずの自分。
変わった事に気付く自分。
[minä デザイナー] 皆川 明さん

「なんか、コンクリートがひんやりするような、
あったかいような感じで。」
なんとなく僕の毎日はそんな感じのような気がした。
[Supercar] いしわたり淳治さん

(順不同・敬称略)



11月28日(火)～12月3日(日)レイト・ロードショー!

連日 夜9:00～レイトショー (10:00終了)

●12/2(土)・3(日)のみ昼12:00～追加上映あり

維新派「チャンチャン☆オペラ 流星」(10/20-11/7公演)の
チケット半券をご提示頂くと当日料金¥1000に割引します!

●特別鑑賞券¥1000好評発売中!

当日料金:当日/一般・大学¥1400

RCS会員・高校・シニア¥1000

◎RCS membership 2000秋 新会員募集中!

京都みなみ会館

九条大宮・近鉄東寺駅(JR京都駅よりひと駅)西へ150m
☎075-661-3993 www.rcsmovie.co.jp/minami/